

場所のヒエラルキーと移動
-現代ソウルにおける日本人観光の変容

金成玫（北海道大学）

1. 場所のヒエラルキーと移動の変容

- ・ 同質化・断片化・序列化による場所の再構築
- ・ 場所のヒエラルキーによる移動の企画・媒介・遂行
- ・ 大衆・消費者・観光客の形成による場所の消費と移動
- ・ メディアのまなざしによる場所の認識

2. ソウルにおけるポストコロニアルな観光空間の形成

- ・ ポストコロニアルな権力構造と都市の空間形式
- ・ 開発途上国のツーリズムにおける形式的合理性と実質的合理性の問題
- ・ 「65年体制」の権力構造
冷戦体制にもとづく東アジアの地域秩序のなかで、①アメリカン・ヘゲモニー、②日本の中核国家としての役割、③韓国の開発独裁主義、④日韓のポストコロニアルな諸関係などが複雑に絡み合ったプロセス
- ・ 「65年体制」における観光空間の形成
 - (1) 企画者としてのアメリカ：戦略指導・研究・提言
M.カウフマン（1966年）①500軒の一流のホテルを建設、②出入国手続きの撤廃、③民営航空会社の育成、④国際航空就航の自由化、⑤観光機構の再整備、⑥政府管理企業体（バンド・朝鮮ホテル、ワーカーヒルなど）の民営化、⑦ソウルの重点開発、⑧観光交通施設の改善（*キーセン観光の活用を強調）
 - (2) 日本の中核的役割：資本、観光客、技術やノーハウの越境
 - ①ホテルなど観光施設に資本や技術の投資、②日本人観光客（1973年に60%超え）中心の観光空間、③40代以上（1972年に約70%）の男性によるキーセン観光が主な観光商品

- ・米軍基地をめぐる権力闘争
 - (1) 民主化後、ソフト・ナショナリズムの台頭と反米意識
 - (2) 米軍基地の移転をめぐる論争がもたらした場所性の再認識
 - (3) 江南を中心とした経済的・文化的基盤によるヒエラルキーの転換
 - (4) ソウルの再構築における^{ヨンサン}龍山の意味

4. 観光空間の変容

- ・ オリンピック・国際化による移動の開放と国家戦略の変化
- ・ 資本・民間による観光企画・開発への転換
- ・ 国内の大衆・消費者・観光客による場所の消費
- ・ 国際的秩序のうえでの実質的合理性の考慮
- ・ 中産階級の拡散とイメージの変容
- ・ 日本人観光の変容
 - (1) 民主化、オリンピックなどによる認識の変化
 - (2) 江南の発見と新たな「韓国的なもの」の消費
 - (3) キーセン観光とツアーの変容
 - (4) 個人・若者・女性による観光の増加
 - (5) メディアによる新しいソウル・イメージの生産・消費

5. まとめ

- ・ ソウルの現代性は、冷戦構造におけるポストコロニアルなヒエラルキーとそれによる開発主義的秩序が、近代化・民主化・国際化をつうじて空間的に転換することによって再構築された。
- ・ 江南の成長と新たな主体の形成による経済的・文化的基盤の変容は、ソウルの政治的基盤の変容をもたらした。
- ・ 米軍基地の移転の要求は、ソウルの空間的基盤の再構築とともに、それをめぐる認識、態度とまなざしの変容を表すものであった。
- ・ 戦後ソウルにおける日本人観光は、戦後的ヒエラルキーによって企画された観光空間で「朝鮮的なもの」を再生産・消費するかたちで形成した。
- ・ 80年代後半以降日本人観光の変容は、ソウルのヒエラルキーの空間的基盤の変容が生み出した質的效果として現れた。